

もう2度と、子どもに
「勉強しなさい！」
と言わなくてすむ方法

「**な**んでテスト前なのに
スマホばかりいじっているんだろう…」

「勉強しなさい！
…なんて本当は言いたくないのに
子どもの姿を見ていると、ついつい…」

実はこれは、多くのお母さん方の
“共通の悩み” なのです。

あなただけの悩みではありません。

実際に、
「**次回は絶対に頑張るから！**」
という子どもの言葉を信じて見守ってきた
にもかかわらず…

肝心のテスト前になったら
なんだかいつもより長時間テレビを見ていたり、

友達と遊びに行く回数が増えたり、
スマホをいじる時間が長くなっていたり…

子どもがそんな調子では
「勉強しなさい！」
と言いたくなってしまうのも当然ですよ。

**「次は頑張るから」って言ったじゃない！
あの言葉は何だったの？**

その言葉と矛盾した行動には
ついついイライラしてしまうのが人情。
そして将来のことを考えると不安でたまらない…

しかし、安心してください。

この小冊子を読んだ後、あなたは

自分の子どもに合った教育を
探す方法がわかるようになります。

子どもの考えていることがわかるようになります。

子どもをどうやって導いてあげればいいのか、
それがわかるようになります。

お紅茶でも用意して、
ソファーにでも座って、
リラックスした状態で
読んでいただければ、と思います。

それでは、はじめます。

重大な事実

まず、重大な事実から発表します。

ついつい口にしてしまう

「勉強なさい！」

というフレーズですが…

実はこれ、1位なんです…

「子どもが親に 言われたくない言葉」

第1位なのです。

さらに…

成績が上がる生徒の共通点第1位は

「親に勉強しろと言われ ない」

なのです。

塾業界で出ているデータによると、

中学3年の生徒が1年間学習塾に通って上がる偏
差値は0.1だそうです。

そんな中、私の塾ではスタートアップから

4年連続で生徒の20%以上が偏差値 10以上アップ

を達成しています。

その子たちと毎日接し、会話をし、
そして保護者の方と何度も面談をする機会もあり
ます。

そこでわかったことは、

「成績が爆発的に上がる子は、親に『勉強しなさい』と言われない」

ということでした。

反対に、成績が伸び悩む子の共通点は

「親に『勉強しなさい』『ひまなら塾に勉強しに行きなさい』と言われる」

ということです。

「勉強しなさい！」

というのは、

子どもに絶対言ってはいけない最悪のNGワード
だということです。

まずこの事実を知ることから始まります。

ではなぜ、

「勉強しなさい！」と言ってはいけないのか。

今から順番にその理由をご説明いたしますが、
その前に…

子どもにとっての現実

私自身、中学3年時に偏差値10アップさせ偏差値
70まで伸ばすことができました。

そして、高校では成績が基準以上だったため
推薦で大学に進学することができました。

また、大学卒業時にも成績優秀者として大学院への
推薦進学権を得ることができました。

私は両親に一度も、
「勉強しなさい！」
と言われたことはありません。

“ただの一度も”です。

「偏差値10上げた私」
を成績が上がる生徒に分類すると仮定すると、
やはりここでも

「勉強しなさい！」
と親に言われていません。

「それなりに成績がいい子は
言われなくても勉強するんじゃないの？」

そう思われるかもしれません。

しかし…勉強が嫌いな進学校の生徒はたくさんいます。

私の友人はいつもこう言っていました。

「あ～、勉強めんどくさい！」

意外でしたでしょうか？

私自身も、
勉強は面倒くさかったです。

実際、中学の部活を引退するまでは
全くと言っていいほど勉強しませんでした。

テスト期間というのは、
せっかくの部活の休み期間です。

「よーし、やっと遊べるぞ！」

と、これしか頭にありませんでした。

これが子どもの心理です。
子どもにとっての現実なのです。

子どもが勉強しないのは普通のことなのです。

むしろ子どもとして健全といえます。

そんな、健全な子どもに

「勉強しなさい！」

と言ったら、どうなるのでしょうか？

答えは、ますます勉強しなくなります。

これは“意志エネルギー”が関係しています。

意志エネルギー

子どもだけに限らず、人間には
“意志エネルギー”というものがあります。

朝起きたとき、意志エネルギーは
「100の状態」です。

「宿題終わったの？」

お母さんに聞かれて、実は終わってないとします。

「ああ、実は終わってないんだよなあ…(気が重い)」

「ちゃんとやらなきゃな…」

意志エネルギーは90に減ります。

そして学校へ行きます。
今日はあんまり気分が良くないけど、
無口で黙っているわけにもいかない。

友達とコミュニケーションをとります。
エネルギーは残り60です。

部活の練習で疲れました。
帰り道を歩くのだって、結構大変です。
やっと家に着きました。
意志エネルギーの残量は15しかありません。

ご飯を食べ、お風呂にも入りました。
ちょっとテレビも見ました。
少し気力が戻ってきました。

そして、残りの力を振り絞って、
勉強しようと部屋に戻ろうとした、その時…

「ちゃんと勉強しなさいよ。」

…今からやろうと思っていたところだよ！

ついに意志エネルギーはゼロ。

スマホをいじって、

友達と LINE をして…

“意志の力を使わないこと”しかできません。

お母さんの例では、どうでしょうか？

朝起きたとき、100。

朝ごはんの支度です。

「何を作ろうかな？」

考える作業は意志を使います。

90に減ります。

子どもがなかなか起きてきません。

「もう、しょうがないなあ…」

起こしに行きます。70に減ります。

旦那さんと子どもが家を出て、

今日のパートのシフト表を見ます。

「あ～、今日はあの人がいるのかあ。

嫌なんだよなあ、あの人ぐちぐちうるさいし…」

仕事に行く前に50に減ってしまいます。

「仕事に行く前なのに、なんだか疲れてしまった…」

こんなことって、ありませんか？

それは、意志の力がずいぶんと

減ってしまっている状態なのです。

こんなふうに、人間は意志エネルギーの残量で

頑張れるかどうかが決まってきます。

「勉強しなさい！」というのは、

意志エネルギーを奪ってしまう言葉です。

だから、NGワードというわけです。

結果的に、勉強しなくなってしまう。

そうすると当然、成績が上がることはありません。

下がっていく一方、なんてことだってあります。

すると、どうなるでしょうか？
完全に自信を失ってしまいます。

「自分には〇〇は無理…」

「自分は太したことないから…」

「自分に自信が持てない」

これは成績上位の子であっても
起こってしまう悲劇です。

実際、高学歴でも
自分にまったく自信のない人を
たくさん見てきました。

勉強することで得られる学歴も
確かに大事だと思います。

ですが、
いくら学歴が良かったとしても…
「**自信**を持って、生き生きと人生を送る」

それが出来なかったら、意味がないと
思わないでしょうか？

**「わかりました、もう勉強しろとは言いません。
でも、一体どうしたらいいの？」**

「そんなこといっても、放っておいたら、結局勉強しないような気がする…」

そうなんです。

「勉強しなさい！」

とは言わずに放っておいても、
やはり子どもは勉強しないのです。

じゃあどうしたらいいの？
と。

そこで活躍できるのが、学習塾（カリキュラム・教材）。

私はそう考えています。

でも…

学習塾のウソとホント

実は、ほとんどの学習塾は

「生徒の“成績もやる気も”上げることができない」
のです。

ということでしょうか？

それは、ほとんどの学習塾は

「きちんと教えることが仕事だと考えている」
ということです。

これは大手塾の集団指導の塾、個別指導の塾、
それから小さな個人塾でも、
どこでも共通していることです。

「きちんと教える。それが仕事だ。」
と考えています。

それ自体は決して間違っただけではないのです。

しかし、

「しっかり教えること」

だけでは、やる気も成績も上がらないのです。

成績アップの真実

正直に言いますと、

実は私自身も、この落とし穴に気づきませんでした。

中学生の指導を8年以上、

小学生・高校生は3年以上やってきました。

ですが、

いくら良い授業をしても、一生懸命教えても、

成績が全く上がらない生徒がいたのです。

一体なぜ、成績が上がらないのか？

答えはシンプルなものでした。

成績が上がらない原因は、
量をこなせていないことです。

しっかりと学習内容が定着するまでの
学習量が足りていないのです。

「なんだ、そんな当たり前のこと」
と思われたかもしれません。

でも、考えてみてください。

やっていることは全く同じです。
同じ授業を受けて、
同じプリントをやっているのです。

なのになぜ、成績に差が出てしまうのか？

成績に差が出てしまう原因は、
**“学習内容が定着するまでに
必要な反復練習の量は、
その子によって変わる”**
ということなんです。

成績アップのカギは、反復です。

大手塾はそれを「大量の宿題」で賄っています。

大手の集団指導の塾に通うくらい
レベルの高い生徒さんであれば、
大量の宿題をこなす生徒は一定数います。

そのような生徒が、しっかりと高学力を維持し、
トップ校へ進学していくのです。

その証拠に、勉強ができる人には
「勉強はやるかどうか、それだけだ」
という共通認識があります。

本当にそれだけなのです。
シンプルな話です。

個別指導の塾では、
一人一人教えることができるので、
「理解する」という部分はクリアできます。

ですが週1回や2回、90分程度では
「理解した」だけで終わってしまいます。

身に着くまでの反復練習をこなす時間が
全くありません。

だから、成績が上がるのに十分な
学習量を自分でこなした生徒さんだけが
成績アップを実現できます。

“2種類の”やる気

ですから結局、
子どもにいかに学習量をこなしてもらうか。

成績アップの肝は、この学習量です。
そして、学習量をこなすための「やる気」なのです。

やる気には、“2種類”のやる気があります。

1つ目は、「初期のやる気」。

2つ目は、「結果が出てからのやる気」です。

まず1つ目の「初期のやる気」についてです。

勉強になかなか積極的でない状態では、
勉強に向かうための「きっかけ」が必要です。

「ちょっと勉強がんばってみようかな」
と思えるような、外からの刺激が必要です。

言いかえると

「これなら成績が上がりそう！」

「そして、これならできる！」

と、子ども本人が期待を持てる状態に
してあげることです。

刺激を受けて出た“やる気”は、一時的なものです。

しかしこれが、2つ目の「結果が出てからのやる気」という“真のやる気”につながっていきます。

一時的でも何でも、
しっかりとしたカリキュラム・教材で
学習量をこなせば、
必ず結果を出すことができます。

成績アップは必ずできるのです。

そして、結果が出た後、
ついに「真のやる気」が出るようになります。

少し専門的に言うと
「脳が報酬をもう一度得ようとする働きにより、
自主的に同じ行動をとろうとする」
のです。

これはどういうことかと言うと、
まず成績をアップすることができて、

「自分って、やればできるんだな！」

「周りからも褒められた！」

という快感に結びつく経験をします。

すると、もう一度同じ経験をしたくて、
その手段を自ら取るようになります。

つまり、「どんどん勉強したい！」
という真のやる気生まれるわけです。

こうなると、

「成績がアップした！」

→「嬉しい！褒められた！」

→「次も勉強しよう！」

→「また結果が出た！嬉しい！」

という好循環が生まれます。

良いスパイラルに乗れたら、
あとは安心して見ていただけますよね。

結局

話をまとめます。

成績アップを実現するには、
しっかりしたカリキュラムに従って、
学力が定着するまで粘り強く
学習量をこなさないといけません。

そうすれば、どんな生徒でも必ず成績が上がります。

しかし、
その学習量をこなすためには、
「やる気」が必要なのです。

注意しなければいけないのは

「勉強しなさい！」

といくら言っても逆効果であること。

意思エネルギーが減るだけで、
余計に勉強しなくなります。

そこで、子供がやる気になって
勉強に向かうためには、
「子ども自身の勉強への期待感」
が必要です。

これがないと、積極的に勉強しようとはしません。

その期待感を生み出してくれるような
学習塾が理想的です。

そして、良い結果を出すことができれば、
あとは好循環が続きます。

「頑張って、結果が出た！」

→「うれしい！」

→「次もこの快感を味わおう！」

一度結果さえ出せば、
こういう好循環に入ってくれます。

いちいちうるさく言わなくても、
自主的に勉強するようになるのです。

ですので、もし今、

「子どものやる気があまりなくて悩んでいる」
ということであれば、

「ここで頑張ったら成績が上がる！」

と思えるような塾や、

「これならやれそうだ！これで学んで頑張りたい！」

と思えるような教材で勉強することです。

「本人が信じられているかどうか」

が、とても重要になってきます。

子どもの信頼感、期待感が本人をやる気にさせます。

そして、

それでしっかり勉強すれば、必ず成績は上がります。

ですので、

お母さんが子どもにしてあげて欲しい

最高のサポートとは、

お子さんに合った塾・教材、
お子さんが勇気と希望を持てるよ
うな塾・教材を
一緒に探してあげること

です。

さいごに

私も学習塾をやっている人間として、
大切に思っていることがあります

「生徒の成績をアップさせること」。
と同じ、あるいはそれ以上に大切にしていること
があるのです。

「ちょっと成績が上がった。でも別に嬉しくない。」
これでは、
その子の人生は変わらないと思うのです。

もちろん、
少しでも良い学歴を手に入れることは
たくさんのメリットがあります。

それは私が申し上げるまでもないことです。

しかし、
**高学歴だからといって、
必ずしも生き活きとした楽しい人生を送れるか
というのは別問題**なのです。

だから、正直言って、
成績アップというのは一番大切なことでは
ありません。

塾をやっている立場の人間として
それはどうなのかと思われるかもしれません。

でも、
私は本当にそう思うのです。

成績アップなど、塾として当たり前です。

大事なのは、子どもが自主性をしっかり
持てるようにサポートし、導いてあげること
だと私は考えています。

**本当に価値があるのは
勉強する過程で身につく自立の精神。**

これだと思うのです。

ある女の子の話です。

彼女は中1の

夏期講習から入塾してきました。

そんなに成績がいい訳ではありませんでした。

偏差値40ちょっと。

平均が50ですから、平均よりはるかに下の方です。

はじめは友達も少なく、

塾に来るのも少し面倒だった様子でした。

それでも、お母さんのサポートがあって、

欠かさず塾に来てくれました。

1か月もすれば

「塾に来るのが当たり前」になります。

習慣となった後は、意志の力は
必要ありません。

すると、残りの意志の力を
英単語を覚えたり、
難しい数学の問題を頑張って考えること
などに使えます。

そして、中3の夏。
私の塾では中3生は1日12時間勉強しますが、
彼女はついてくれました。

8月末の実力模試の結果は、
なんと偏差値53！！

受験直前の1月の模試では偏差値56！！！！

成績面だけではありません。

挨拶も完璧ですし、
他の中学校の子と仲良くなったりと
勉強以外の面でも生き生きしている様子が
印象的になりました。

「自分って、やればできるんだ！」

そう思えるような、
彼女のような生徒を一人でも多く増やしたい。

これが私の使命です。

最後までお読みいただき、ありがとうございました。

著者プロフィール

山田優輔
中央大学理工学部卒
高校受験ラボ管理人
学習塾 Makeage
(メイケージ)教室長



中学 3 年時に偏差値 10 アップさせ
偏差値 70 まで伸ばし、
高校・大学時には成績優秀者として推薦進学卒取得。

2010 年から小・中学生の指導を始める。
2014 年に千葉で学習塾 Makeage(メイケージ)のスタート
アップメンバーとして参画。
現在も教室長として現場の最前線で
小・中・高校生に勉強の指導を行なっている。

また保護者向けに「子どもを前向きにさせる言葉がけ」等
のアドバイスを行なっている。

自身の経験、学習塾で日々得ている経験、

そして心理学・脳科学・行動経済学の理論を生かし、
毎年生徒の平均偏差値を7 アップさせ、
偏差値 10 以上アップ者も続出。
勉強や受験を通じて「自分はやればできる！」
という成功体験と揺るぎない自信を得てほしいと考えてい
る。

2017 年に
「もっとたくさん子どもたちに勉強を通じて自信と主体性
を取り戻して欲しい」
という思いから、
自身の経験から得られた成績の上がる勉強法と、
子どもを伸ばす言葉がけの方法をまとめたサイト「高校受
験ラボ」を立ち上げる。

【高校受験ラボ】

<http://koukoujuken-labo.com/>

【学習塾 Makeage】

千葉市美浜区真砂2-12-9 2F

TEL:043-279-8226

<http://yobiko.makeage.co.jp/>